

## 指標 4.1.1

### 指標名、ターゲット及びゴール

**指標 4.1.1** (i)読解力、(ii)算数について、最低限の習熟度に達している次の子供や若者の割合(性別ごと)

(a) 2～3 学年時、(b)小学校修了時、(c)中学校修了時

**ターゲット 4.1** 2030 年までに、すべての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする

**ゴール 4** すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

### 定義及び根拠

#### ○ 定義

小学校 4 年生及び中学校 2 年生において、算数・数学について、最低限の習熟度に達している子供又は若者の割合。

#### ○ 概念

国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS) において 400 点を獲得することが、「最低限の習熟度」に達していることのメルクマールになるものと考えられる。

TIMSS における 400 点というラインは、得点(IRT による)の平均(500 点)、標準偏差(100 点)をもとに国際的な調査データに基づく統計的処理から導かれた国際標識水準であり、文部科学省が定める初等中等教育段階における教育課程の基準である学習指導要領とは完全には一致しない。しかし、我が国は、国際標識水準の考え方が導入された TIMSS2003 以降、400 点というラインに達した割合において、極めて高い水準を維持し続けている。これは、我が国において一定水準以上の教育の機会均等が実現されていることの現れであり、義務教育課程を修了した者の全国的な状況に近いと考えられるため、本指標の定める「最低限の習熟度に達している子供又は若者の割合」の参考になると解釈することが妥当である。

#### ○ 根拠及び解釈

本指標は、教育段階の特定の時点において必要とされる最低限の学習成果を測定するものである。この指標の値が高いことは、より多くの子供又は若者が、適切かつ効果的な学習成果をもたらす質の高い初等中等教育に参加していることを示す。

上記の最低限の学習成果という点に関し、前項「概念」に記したとおり、本指標は、文部科学省が定める初等中等教育段階における教育課程の基準である学習指導要領とは完全には一致しない。しかし、我が国は、国際標識水準の考え方が導入された TIMSS2003 以降、400 点というラインに達した割合において、極めて高い水準を維持し続けている。これは、我が国において一定水準以上の教育の機会均等が実現されていることの現れであり、義務教育課程を修了した者の全国的な状況に近いと考えられるため、本指標の定める「最低限の習熟度に達している子供又は若者の割合」の参考になると解釈することが妥当である。

## データソース及び収集方法

TIMSS の目的は、初等中等教育段階における児童生徒の算数・数学及び理科の教育到達度を国際的な尺度によって測定し、児童生徒の学習環境条件等の諸要因との関係を明らかにすることにある。

調査対象は、国際的には、調査実施年度末に「9 歳以上 10 歳未満の大多数が在籍して隣り合った 2 学年のうち上の学年の児童」及び「13 歳以上 14 歳未満の大多数が在籍している隣り合った 2 学年のうち上の学年の生徒」とされている。すなわち、ユネスコの国際標準教育分類 (ISCED) を基に、「正規の学校教育の 4 年目に当たる学年に在籍している児童」(第 4 学年) および「正規の学校教育の 8 年目に当たる学年に在籍している生徒」(第 8 学年) が TIMSS の調査対象とされ、日本ではそれぞれ小学校 4 年生と中学校 2 年生を対象としている。TIMSS は抽出調査であるところ、その抽出は国際的に定められたガイドラインに従って、参加各国の児童生徒の状況の縮図が描けるように行われている。

調査では、算数・数学及び理科の問題に加え、児童生徒質問紙、教員質問紙、学校質問紙、保護者質問紙 (小学校) が実施されている。

## 算出方法及びその他の方法論的考察

### ○ 算出方法

我が国において、TIMSS の算数・数学で 400 点以上を獲得した児童生徒の数を、TIMSS の算数・数学の調査に参加した児童生徒の総数で割り、それに 100 を掛けることにより算出する（小数点以下は四捨五入）。その際、児童生徒数の算出に当たっては、重みづけを施した数値を用いる。

（以下、定義式）

<小学校 4 年生>

$$\frac{\text{算数において 400 点以上を獲得した、重みづけで補正後の児童数}}{\text{調査に参加した、重みづけで補正後の総児童数}} \times 100$$

<中学校 2 年生>

$$\frac{\text{数学において 400 点以上を獲得した、重みづけで補正後の生徒数}}{\text{調査に参加した、重みづけで補正後の総生徒数}} \times 100$$

### ○ コメントと限界

上記のとおり、TIMSS は国際的な調査であり、文部科学省が定める初等中等教育段階における教育課程の基準である学習指導要領に基づく調査ではない。

また、算数・数学及び理科に関する調査であるため、読解力に関するデータを報告することができない。

加えて、我が国の TIMSS 調査報告においては男女別に関する分析を行っていないため、性別ごとのデータも報告することができない。

なお、上記のとおり、TIMSS は、国際的には第 4 学年及び第 8 学年を対象としているが、初等教育の年限が 5 年以上の場合には第 4 学年の調査結果を「初等教育中（第 2 学年または第 3 学年）」の値として、また第 8 学年の調査結果を「中学校の修了時」の値として読み替え可能であることがユネスコ統計研究所(UIS)により示されている。

## データの詳細集計

なし

## 参考

TIMSS に関しては、次のウェブサイト参照

(国際全般)

<https://timssandpirls.bc.edu/>

(我が国における TIMSS 代表機関である国立教育政策研究所)

<http://www.nier.go.jp/timss/index.html>

## データ提供府省

文部科学省

## 関連政策府省

文部科学省

## 担当国際機関

ユネスコ統計研究所 (UNESCO-UIS)